

砂浜のほとんどない喜界島で、島唄の舞台となった塩道長浜

喜界島の砂浜を舞台にした島唄、「塩道長浜節」という唄があります。この唄は、美しい女性に言い寄った男性が、塩道長浜という砂浜を馬に引きずられ亡くなってしまおうという悲しいお話を歌ったものです。

喜界島はサンゴ礁が持ち上がってできたので、島の海岸のほとんどはサンゴのごつごつした岩でできています。

ただ、塩道長浜（下の写真）のように、海岸の入り込んだ所にだけ砂浜があります。



昭和52年当時の塩道長浜（現在、この場所は公園になっています。）

どうしてここにだけ、サンゴの岩がほとんどなく、砂浜ができたのでしょうか？

サンゴが育つには、ほどよい塩分の濃さが必要です。川の近くなど真水が混ざるところでは、サンゴはほとんど育ちません。塩道長浜もまた、近くを川が流れています。そのため、サンゴは育たず、馬が走られるほどの長い砂浜ができたようです。